

「母体搬送を断らない」を目標に、
地域の周産期医療の中核として
さらなる安心を提供します



2021年4月より、当院の産科担当診療教授に着任いたしました。これまで北海道で25年以上、周産期を中心に、特に内科疾患合併症妊娠・分娩後の出血・血栓塞栓症、胎児診断・胎児治療を専門分野として臨床・研究を行ってきました。日本産科婦人科学会では、産婦人科診療ガイドライン産科編の作成委員を6年間務め、今年度からは周産期委員会委員ならびに産婦人科診療ガイドライン産科編の評価委員を担当しております。産科診療の標準化とさらなる発展のため、臨床に根付いた疫学研究をもとに新たなエビデンスの発信に努めています。このたび、人生初となる関西とのご縁に嬉しく思っております。

さて、産科はいかなる状況下でも「安全」であることが第一優先です。着任してすぐの5月、本院は胎児治療の「無心体双胎焼灼術（内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術）」、「胎児輸血」「相対間輸血症候群治療」について厚生労働省近畿厚生局より施設認定を受け、6月には無心体双胎焼灼術の手術を行いました。総合周産期母子医療センターを有する当科が北海道内医療圏でもっと信頼を寄せていただけるよう、体制強化と診療レベルのさらなる向上に貢献してゆく所存です。また、臨床と研究のサイクルを強化すべく、若手医師が学会発表や

論文発表する機会を多く持つ環境も整えてまいります。

地域に向けては、先生方との勉強会はもちろん、アドバンス助産師の方向けの必須研修、ステップアップ研修なども実施する予定を立てており、総合周産期母子医療を提供する地域の中核施設としてオープンな場を積極的に設けてゆきます。先生方に「産科を紹介するなら附属病院」と思っていたら、どうぞよろしくお願いいたしますので、お困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。



附属病院では2021年5月に無心体双胎に対するラジオ波焼灼術の施設認定を受け、6月に1例目となる手術を行いました。

New Professor 新任教授に聞く

profile

- 1994年3月 旭川医科大学医学部 卒業
- 2002年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程終了(医学博士取得)
- 2007年1月 仏 CHI ポワシー サンジェルマン・アンレイ 産科 留学
- 2007年4月 北海道大学病院産科 助教
- 2013年4月 北海道大学大学院医学研究科産科 講師
- 2016年9月 北海道大学大学院医学研究科産科 准教授
- 2021年4月 関西医科大学産科学 婦人科学講座 産科 診療教授、産科科長

関西医科大学附属病院
産婦人科 診療教授
森川 守
Mamoru Morikawa

